

## 【様式1】

## 令和5年度 授業改善推進プラン

## 東久留米市立西中学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	R5年度児童・生徒の学力向上を図るための調査における学習の進め方についての問いの中で「漢字を何度もくり返し書いて覚えている。」と回答した生徒が約4割であった。このことから漢字など、覚えるべきことを確実に覚える学習の進め方について課題が見られる。	漢字などの基本的な事項を確実に覚えるための学習の進め方を確認する。また、スモールステップで確認を重ねて、「できた」という達成感を積み重ねられるようにする。以上のことを実践することで、覚えるべきことを確実に覚える学習の進め方について「あてはまる」と答える生徒を5割以上に引き上げる。	
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識・技能では、「正の数・負の数」や「文字と式」の計算力が身に付いていない生徒が6割いる。</li> <li>思考・判断・表現では、文章問題の理解に課題が見られる生徒が多い。(7割程度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算テストを定期的に繰り返し行うことで計算力の向上を図り、8割の生徒が合格できるようにする。</li> <li>授業内で文章問題などの発展問題を解く機会をより多く設ける。また、成功体験を多く与え、挑戦しようとする態度を育てる。</li> </ul>	
(外国語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」の知識・技能において、既習の文法事項の定着に課題の見られる生徒が7割いる。</li> <li>「読むこと」の知識・技能において、既習の単語や文法事項が定着していない生徒が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい単元でも、既習の英文法を取り入れて問題演習を行うなどスパイラル学習で定着を図る。また、教科書記載の英文をノートに何度も書かせるようにしていく。9割の生徒がノート提出物・ワーク提出物を出せるように指導していく。</li> <li>目的・場面・状況設定のある英文で使い方を示すようにし、文脈から意味を連想できるようにする。</li> </ul>	
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>考査において知識を問う問題の誤答のうち、半数以上が漢字や文字の誤答であった。このことから、反復学習による知識の定着が行われていない生徒が多いことが予測される。</li> <li>文章で表現する課題において、3割ほどの生徒が、自分の考えを文章に正しく反映できていなかった。文章による表現力を高める必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習の中で積極的に語句復習の時間をとり、理解を深めるとともに、成果が出て向上心につながるよう指導していく。知識問題の定着が8割以上となるよう反復演習を行う。</li> <li>実験の考察だけでなく、その他の機会にも文章で表現する機会を設け(授業2回に1度以上の頻度)、経験を増やしていく。</li> </ul>	